

発言通告表（一般質問）

令和4年2月定例会

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
5	佐野 智昭（6）	<p>1. 松枯れ被害の撲滅と富士の松原としての再生を目指して</p> <p>平成27年に、それまでの相次ぐ大型台風の襲来が主な要因となって顕在化した松枯れは、市当局の重点的・継続的な対策によって、平成29年度の被害木3026本をピークに減少傾向にあったが、本年度再び各所で松枯れが目立つようになった。</p> <p>そうした状況に対して、地域からの市長への強い要望もあり、昨年12月に、枯れていた松を残すことなく全て伐採していただいた。</p> <p>松枯れ対策は、松枯れ被害の撲滅が目的であり、それが地域の願いでもある。</p> <p>今回の市当局の迅速かつ集中的な対応によって、そのチャンスが訪れている。</p> <p>勝負は、マツノマダラカミキリが羽化して松を脱出し、健全な松の若い枝葉を後食する春から夏にかけて、いかに的確かつ集中的に対策を講じるかである。</p> <p>また、二度と甚大な被害を発生させず、行政と地域が長期的・計画的な視点に立って、松林の保全・育成に取り組んでいくための共通認識や意思統一を図っておくことが必要である。</p> <p>以上を踏まえ、以下質問する。</p> <p>(1) マツノマダラカミキリが羽化し松を脱出する前に、ヤニ打ち調査を実施し、全ての被害木及び潜在被害木の確実な伐倒破砕処理を求めるがいかがか。</p> <p>(2) マツノマダラカミキリを確実に駆除するため、適切な時期に、ドローンも活用しての松くい虫防除薬剤散布の実施を求めるがいかがか。</p> <p>(3) 目指す将来の姿（富士の松原）や方針、保全・育成のための施策や取組、市民・事業者・行政の協働での推進方策などを示した、富士の松原再生アクションプラン等の策定を求めるがいかがか。</p> <p>2. 放課後児童クラブの一括運営の状況について</p> <p>放課後児童クラブ（以下、「児童クラブ」という。）については、富士市放課後児童クラブ運営基本方針（以下、「運営基本方針」という。）に基づき、令和2年度より一括運営がスタートし、令和3年度現在、市内27小学校区中12校が移行している。</p> <p>そのような中、一括運営されている児童クラブにおいて、支援員等の退職が相次ぎ、特に某児童クラブでは13名中7名が退職届を提出し、今年度をもって退職するとの情報を得た。</p> <p>全ての児童クラブが一括運営に移行するまであと3年という中で、果たして運営体制は大丈夫なのか、運営は順調にしているのか、不安に感じるところである。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
5	佐野 智昭（6）	<p>万が一何らかの問題があるとすれば、市としても課題を明確にし、対応していかなければならない。</p> <p>そこで、市として特に注視すべきではないかと考える、以下の3点について質問する。</p> <p>(1) 富士市放課後児童クラブ運営基準（以下、「運営基準」という。）に、運営主体は、運営事務局職員及び支援員等の業務に関する能力や業績について適切に評価を行う仕組みを構築し、定期的に職員の評価を行うこと、とあるが、市は職員の評価をどのように把握しているか。</p> <p>(2) 運営評価委員会が実施する「運営主体の運営状況に係る評価」に、運営の透明性を確保するための情報公開に関する評価細目があり、判断基準として、児童クラブの事業や財務等に関する情報の公表が示されているが、令和3年度の評価はどうであったか。</p> <p>(3) 運営基本方針に、市は随時、適切に指導・助言を行い、毎年度、運営主体の評価を行うとあり、それに基づき、運営評価委員会により「運営主体の運営状況に係る評価」と「育成支援の内容に係る評価」が行われているが、子供の最善の利益を守り安全・安心な居場所を確実に確保するために、念には念を入れてという観点で、令和4年4月から児童クラブも対象となる福祉サービス第三者評価を受けることを提案するがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長